

第2回美祢市総合計画審議会 ひと・暮らし部会 議事録

日時：令和元年7月11日（木）18：30～20：00

会場：美祢市民会館 第1会議室

	委員区分	団体名	氏名	出欠
1	部会長	美祢市社会福祉協議会	羽根 一孝	
2	副部会長	美祢市教育委員会	金子 明美	
3		美祢市医師会	原田 菊夫	
4		美祢市子ども・子育て会議	倉永 健造	
5		山口県立美祢青嶺高等学校	藤村 慎一郎	
6		美祢市地域組織活動連絡協議会	三嶋 明美	
7		美祢市小中学校PTA連合会	松田 龍信	
8		成進高等学校	野原 政典	
9		山口県総合企画部中山間地域づくり推進課	稲垣 嘉一	
10		美祢市議会	高木 法生	欠席
11		美祢市体育協会	真瀬 邦夫	欠席
12		美祢郡医師会	坂井 久憲	欠席
13		西京銀行	末岡 貴夫	欠席

<資料>

次第

委員名簿

第二次美祢市総合計画基本計画（素案） ひと・暮らし部会

第二次美祢市総合計画総合戦略（素案） ひと・暮らし部会

1 開会

～資料の確認～

2 部会長あいさつ

～羽根部会長ごあいさつ～

みなさんこんばんは。昼の仕事に引き続きお集まりいただきありがとうございます。6月に開催した1回目については守備範囲が広い部会であるがゆえに多方面から沢山の意見をいただいた。事務局からもそのあたりをまとめて案をお示しすることになる。限られた時間には

なるが、みなさんからご意見をいただきたい。

3 議事

(1) 第二次美祢市総合計画基本計画の関係部門（案）について

事務局より：資料について説明

部会長：前回の皆さんからのご意見をまとめていただいた内容をご説明いただいた。総合計画の性質上、細かいところは個別計画で深めることとなるため、網羅的に表現や順番をご説明いただいた。これについてのご意見等あれば委員の皆さんにお願いしたい。

委員：16Pで主な取組に高等教育の振興とあるところで、一般的に初等中等教育が高校生までとなり、高等教育は大学となるので「高校教育」などに変更できるように検討してほしい。

委員：全体的にはすごく分かりやすくなっていると感じた。2Pに人口は減っていくと聞いている中で、団体等の数は現状維持や増えていることは現実に即したものになるのか。4Pも同様。7Pの主な取組医療体制の充実で市立2病院と明確に書かれているので方向性がわかれば教えてほしい。9P目、住環境の整備と定住促進で外部から呼んでくる、魅力をつくるということは必要だと思うが、人口が増えている所は住みやすさとしてコンパクトシティの概念があると思う。美祢にもそういった戦略方針があっても良いのではと感じた。13P、目標指数は文化財に関してはまだまだ情報が無いだけでたくさん眠っているはずなのでもっと目標を上げてよいかではないか。16Pの主な取組英語コミュニケーションとICTであればICTの環境の充実の方が優先度が高いのではないかと思う。英語が出来なくてもICTの能力は今後全員にとって必要になるのではないか。どういう能力のある子ども達を育てるのかの方針となる。17Pにあるタブレットについては個人的には100%を目指して欲しい。24P、主な取組で市民参画機会について審議会や協議会は市から外側に出された自由な形でされているところがあった。自由な形でやってみてもおもしろいのではないか。

事務局：目標指標であげている団体数については人口減少が進んでいく中で減ってくる可能性は分かっている。現在において、現状維持を目標とするのが限界ということで目標として持っている。現状を測る代替案があればよいのだが、なかなか難しいのが現状。

住環境のコンパクトシティについては元々都市マスタープランにそのような形を打ち出している。基本構想では謳っている。拠点を美祢、秋吉、大田と設けて進めて行くということに記載している。文化財については審議会の審査を経て指定をしていくことになるため、狭めていることはないが、情報を掴む手段と認定までの流れがあっていない状況はあるのかも。現状を担当課と協議して整理していく。

ICTについては最初は子どもに関する教育のソフト的な記載、ICT環境の整備はハード的な視点が強くなっているため、このような流れとなっている。タブレットの導入の数値目標は担当課と調整させていただく。市民参画の手法については今後進められるか実務レベルで検討させていただく。病院については、基本計画に盛り込めるレベルで議論されているわけではないが、現在は2病院の維持という状態。今後なんらかの議論が深まっていき、気運ないし、情勢が高まってくればそのように記載させていただく。コンパクトシティについて、都市計画部会では集約的都市構造という考え方を深めている。

病院の問題については前回の部会でもあったが、改めて2病院のありよう、必要性を含めてという協議をしていただいても案として受け止められる。

委員：2病院存続とするからおかしくなるが、活用とすれば良いのではないか。国立山口病院

など国立病院の時はいまよく活用されていなかった病院が、地域病院となることで活用される状況も生まれている。存続ということもあるが、存続を前提とせず、2病院をうまく活用できる方法をとという表現でよいのではないか。

部会長：他にはないか。

委員：26Pに地域住民組織や地域組織とあるが具体的にどのようなものを指すか。自治会などか。

事務局：市民活動、コミュニティ活動というベースとして自治会が一番大きい。それに対して、助成事業などで活動を支援している。市民活動支援センターなどの環境整備や公民館の役割の見直しなど進めて行く。地域での担い手の育成支援も考えていくというニュアンスである。

委員：今後行政ではなく、地域住民が課題を解決していくという課題の中で、地域住民組織をもう一段レベルアップさせるような、地域運営組織のような主体的に多角的な取組を行う組織も必要になってくるかと思う。県内は比較的地域運営組織は全体的に組織されていない状況がある。そういった組織の設立などのサポートも考えてはどうか。担い手の部分では育成と書いていただいているが、その箱というか、組織自体の設置も必要なのではないかと感じた。

事務局：確かに組織の育成が課題となっている。モデル的に赤郷で法人化を目指しており、今後さらに美祢市の中で法人格を持った団体に発展させ、自立的な運営をする組織を作っていきたいので追記しようと思う。

委員：地域包括ケアシステムの単位として運営していくのどの程度の単位で想定しているか。

事務局：今現在3地域で考えている。

委員：面積的に広すぎはしないか。

事務局：現状上手くいっていない部分に地理的な広さもあるかと思う。包括ケアシステムではないが、自治組織としては公民館単位としており、地区社協の単位であるとか、そういったところで具体的にどれが有効であるか検討している。いずれにしても地域包括ケアシステムがまだ動いていないというところで、どのように動かしていくべきかが一番重要な問題であり、主体としてコントロールするところがどこなのか、行政側がするのか、民間がするのか大きな課題となっている。

部会長：分野で階層というものがいろいろあって、美祢市全体は一層で良いと思うが、二層の発送も旧町単位や群で行くこともできる。さらにその下がいろんな分野で分かれて公民館、学校の校区、地区社協など分かれていて、地域包括ケアシステムはどのピラミッドで行くのかから始めないと、解決できない所があると思う。

委員：大分大学で認知症に関する勉強を中学校区でやっていた。その範囲であればみなさんの知識がひろがるのではないかという判断だったのかと思う。

事務局：中学校単位が合理的であればそういった形で進めて行きたいと考えている。

部会長：いずれにしてもこれからの整備ということになる。階層の整備などそのあたりも少し、包括ケアシステムだけではないと思うが、加えられるところがあるのであればそのあたりも付け加えてはどうかと思う。

事務局：そのあたりは地域福祉計画など個別計画で整理されていくと考えている。

委員：そういったことをさっさと決めて、広報していただきたい。裕福な高齢者が自分たちの意思で美祢を出て言っている状況。結局美祢にいても展望がなにもないと考えられている。そういった方たちにやりがいを見せてボランティアなどの担い手になっていただかなければならない。早く進めて行く必要がある。

普通にしていたら人口が一番少ない美祢が一番最初につぶれる。同じことをしてはいけない。医師会でも市民に対してまちづくりとしての地域包括ケアシステムの重要性を謳うような講演会を予定している。市でもなるべくはやく市民におろしていただけるよう切望する。

部会長：14Pひとの育成の施策1のタイトルが長いように感じるので、短くしてはどうか。
2P民生・児童委員とあるが、中点は必要か。

委員：中点が必要。

(2) 第二次美祢市総合計画戦略の関係部門(案)について

事務局より：総合計画と総合戦略の関連について説明

部会長：前回会議時間が長引き十分説明いただけなかったので、委員の皆さんから意見集約をさせていただき反映させたものである。意見があればお願いしたい。

委員：2Pで出会いの機会の創出は市がわざわざするものなのかどうか。

事務局：一応総合戦略は国の指針と前回のを踏襲しているが、国の指針でも若い世代の結婚、出産、子育ての流れを踏まえ誰もが活躍できる地域社会をつくるというところで、結婚、出産、子育てを盛り込む形になっている。ライフステージの流れの中で項目を設けさせていただいている。人口減少の取組として、結婚ということを踏まえて地域に住み続けるなど、少子化対策のひとつの結婚支援の項目としてあげられるものとして出会いの創出を入れている。

委員：限られた資源を活用するのであれば出会いよりも子育て支援に資源を回してはどうかと思うところがある。メニューが多いに越したことはないが、そうもいってられないのではないか。

委員：4P、みね型教育について学校が一丸となってやろうといろんな動きをしており、全体的にいろんな指標があってもよいのではないか。ふるさとを愛する高校生、離れても故郷を良く言える子どもたちが増えて欲しいので指標から消えてもつたいないと思う。故郷を愛する高校生の割合などそんなのがあるといいなと思う。

5Pでコミュニティ教育が美祢は小学校から高校までの12年間でできる。中高連携は昔からあるが、小学校と高校がつながる動きがあるので、キャリア教育の視点で12年間美祢はやるんだと、そうすれば前のページの指標で市内高校に入学する生徒の割合が今は40%だが60%くらいになるのではないかと思う。小学校の先生はあこがれるような高校生になってほしいと思っている。あんな高校生になりたいと思ってもらえるようになったら市内に残る。県立と私学と違うが、小中高一貫が美祢市の魅力だとしていただきたい。それに対して障害があるのならいけないが、できるのならしてほしい。

委員：引き続き、幼稚園保育園から小学校中学校高校という流れもできており、その連携を匂わせるつもりでここが残ってほしいなと思っていた。

委員：充実したクラブ活動をするに際して、いまの子どもの数では1校にするしかないのではないかと思うがどうか。

委員：団体種目がだんだん厳しくなっているようで、小中高一貫校を作ろうと言われたが、大田中と美東中はできるが他はできない。

委員：好きなクラブに入れない子どもがたくさんいるというのも現実ではないか。

委員：於福中学校では英語のプレゼンなどやっていたが、小さい学校で機動力を発揮してでき

ることをやっていくことも重要。運動部については本校でも部活を来年増やす。小さい学校は個人種目しかない。規模は小さくなりながらも部活は増やしていく。網羅できるように頑張っている。文化もそうだがスポーツも活性化の一部。合同チームという考え方も良い。

委員：放課後スクールバスを走らせてやりたいクラブのある場所に生徒を運ぶという方が現実的なのか。

委員：その方が良いと思う。

委員：子ども達に関わる先生方が子どもたちのためになにが一番良いのかを前提に意見を出し合って、小規模校の良さも活かしていただき、美祢に住んでいる子どもたちが他の町の子だったらできることができないということが無いように、実際問題クラブの選択ができない子ども達もいるのだとしたら、市として放課後スクールバスを走らせるなど好きなクラブのある学校にいけるといったそういった形を子どもたちのために作ってあげるといふか、子どもたちのための環境を整えて、できたら総合戦略にも反映していただけないかと考えている。

事務局：適正規模、適正配置は議論していただいている。戦略のなかでは子どもたちの選択肢を広げられるような記載を考えていく。

委員：適正配置などは最低限の数字であって、全体の目指すべきデザインがないから困っている。これを整備するべき。

事務局：前回もおっしゃっていただいたので、本市の教育がどうあるべきか、そのあたりを検討していきたい。学校に限らず病院のこともある、どう活用するかということが見えないから混乱、不安があるのかと思う。まちづくりにおいても、拠点を作っていくということをもっとお伝えしていかないといけないと思っている。

委員：10P地域運営組織の数について、人材育成支援というよりは小さな拠点の方なのではないかと思うのでご検討いただきたい。

事務局：9Pの下段で多世代協働のまちづくりは全世代や全員に言葉を変えてきている流れがあるので、みなさんはどう考えられるか。

部会長：ではそのように修正をお願いしたい。

事務局：地域包括ケアシステムの指標で良いご意見はないか。

委員：難しいと思う。具体的なイメージが無い。本当はそういったことを話し合う場を作りたいが、地域包括ケアの担当者会議すらない。早急にそういう場を作っていただき、市民の中でも地域包括ケアのイメージがない。医師会としては、遅ればせながら市民の方に地域包括ケアがまちづくりと分かるように市民向けの講演会を行う予定。県全体が遅れていると思う。

委員：地域運営組織についても県内は他に比べて遅れている部分がある。

委員：美祢は人口が少ない分、やると早いはず。警察でもなりすまし詐欺の警告機械が取り付けられる目途がついてきている。小ささのメリットはあるので、第1歩を踏み出す場をつくっていただきたい。地域単位のそういうものができあがれば、いろんなものに応用が利く。人材は今はいるので活用して、安心して美祢で暮らし続けられる人を増やしていかないといけない。具体的に話していく場がないのが現状だと思う。医師会でも独自に動いているが、そういうのも含めてタイアップしてやっていくべきだと思うが、時間がない、時間との闘いの状況でもある。

委員：人口知能が入って人手がいらなくなるというが、それは20年後であって、今は導入するときの人手が足りていない状況。AIの活用がどう影響をあたえるのかなど人口の少

ない所でモデル的にやっていくことができるのは地方の方が良い。そこは利用しないと
いけない。仕事がなくなると言われているが、そういう状況である。起業家の話もあつ
たが、中学生にそういった話をしていかないと先がない。早く動かないと待っていても
先を越されてしまう。

委員：早いことは大切。着眼点とさっさと手をあげることが大切。賛否両論あるが、社会復帰
センターがあることで、それだけの人口と購買力などがある。早く手をあげた結果であ
る。そういったことを考える部署は市にあるのか。

事務局：私どもがやらなければいけない。特にこの総合戦略というのはそういった人口減少な
どに対してどのように取り組むかまとめるもの。戦略的に積極的に挑戦していかないと
いけないことがあると思っている。

委員：現状値と5年、10年の目標があるが、わずかな伸びを期待して目標決めている感じが
するので、そう考えればできないことはない。可能なものが見え隠れするので、良いか
と思う。その間に、見直しを是非やっということ。県の会議があつたが、計画
を立てて進めていく上で、一定期間で評価をしながら見直ししていくとあつた。これ
を見る限り可能な数字と思うのでがんばらなければいけない。

我々は住民側にいるので、行政への要望をすると、どうにかせんといけんとわかってい
ながら、他にもいろいろ課題があるかのような空論で終わってしまうことが多い。今は
出来なくてもいつならできるといった回答がほしい。

部会長：一人の声よりも地域の組織などの地元のことは自分たちで考えて話し合える組織があ
れば進み具合にも影響があると思う。

委員：子育てサポートのことで、福祉センターで見た、いつでも遊ばせにきても良いという場
が各所に一部屋でもあれば、良いなと感じた。

公民館の横に川があつて、柵が錆びており子どもたちが走ると落ちてしまうような場所
がある。心配だが、市のものではないから直せないと言われたがなんとかしてもらわ
ないと感じた。市ではなく河川の問題らしいが、そういったこともこれらの計画にはは
いるのだろうか。

事務局：もちろん行政がしないといけないことはあるが、まずは自分たちで何ができるかも考
えていただくと助かる。

委員：館長に言ったが、市のものではないのでしてはいけないと言われた。

事務局：われわれも一緒に考えないといけない。公民館に相談していただければそれで良いと
思う。

4 その他

事務局：次の予定は8月5日18:30から総合計画の審議会、基本計画の部会、総合戦略の
部会を続けて行おうと考えている。3つの専門部会の内容をとりまとめた内容を議論す
る形。